

(1) 近視とは

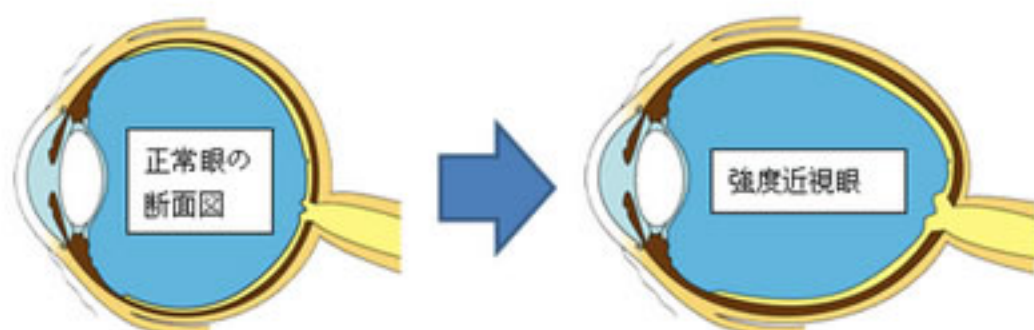
眼の現代病ともいわれるものに『近視』があげられます。一般的には『近くのは見えるが遠くのが見にくい』状態のことを言います。

欧米人と比較してもアジア系民族に多く見られ、日本人については実にその42%が近視であるという統計もあります。

原因としては、幼児期の成長とともに遺伝的因子と環境的因子が複雑に絡み合うことによって近視に至り、30代くらいまで進行するようです。

また、特定の疾患によって引き起こされる近視があることも知られています。

近視の分類については、分類法がいろいろありますが、裸眼視力が概ね0.03を下回るものを『強度近視』と呼んでいます。



※ 強度近視は正常眼と比較して眼軸が伸びる場合が多い(東京医科歯科大資料より)

(2) 強度近視

近視になると元の状態に戻すことは難しく、通常は眼鏡やコンタクトレンズを組み合わせ、『快適な視生活』の維持を目指すことになります。

しかし、強度近視の方は、いわゆる飛蚊症になり易く、網膜剥離や網膜変性を起こしやすいと言われております。また、緑内障にも注意が必要です。

疾患によっては、症状が自覚されにくいものがございます。

日常的に何らかの『見えにくさ』を感じられていらっしゃる方、『近視が強い』と指摘されたことのある方は、是非一度、眼科医に精密検査についてご相談いただけますようお願いいたします。

(3) 当院の取り組み

ゆたに眼科では、花粉症や結膜炎またはコンタクトレンズ処方などで来院された患者さまにも、医師の診断のもと、適切な検査を行っております。

また、眼の健康診断であるメディカルアイドックなどをご用意しております。

強度近視の方には、定期的な視力検査や精密検査が必要な場合が多いようです。

医師・スタッフまで、ご遠慮なくご相談下さいませ。